



●季節感のある内容も

この日のサロンは、親子で七夕作り(取材日は7月4日)。参加者は1組1本の竹を もらい、願いごとを書いた短冊と、折り紙で飾りつけ。スタッフのようこさんの願い ごとは「さつまいもが大きくそだちますように」。その他、参加者と手遊び歌なども。





●サロンスペース

(写真左) サロンスペースは、安全のため柵で囲み、外から簡易的な施錠ができる。 床には(学童が用意した)ソフトマットも。目が届く範囲で安全に自由に遊べる空間は、 親にとってほっとひと息つける場になっている。サロン終了後は、毎日掃除も欠かさ ない。子育てサロンを行う際は、特に「安全」・「清潔」・「(親が子どもから目を離せる) 安心感」は大切なポイント。





●リユース

(写真上) 洋服 や肌着等は、バ ザーに出し、その 収益金の一部は社 協運営費に。(同 下) 寄付いただい たベビーベッドは 参加乳児の昼寝用 に活用。



参加者・小物・ 利用案内など



●5月は「端午の 節句」にちなみ 鯉のぼりを作成。



図書貸出簿 絵本以外にも 育児本なども。

●救急箱。消毒液や ゴミ袋も常備。



●音楽セット

歌や手遊びを行うサロンでは、ラ ジカセ・CD を所有するところが多い。

●「すまいる利用案内」

初回来館時に、利用者登録とあわせ て配付。開設時から少しずつ項目数や 内容を加除している。登録の項目は、 子どもと親の名前、生年月日、住所、 電話番号、同意する旨の署名。



●スタッフの皆さん。左から西本さん、天野さん、河本さん、 井上さんと愛娘のりこちゃん。



●平成29年7月4日(火)取材時の参加者の皆さん。

ちば民児協だより





- ●発行:本会/●発行:年3回/●配付:全委員 (右)「ちば民児協だより第66号」(特集)見守る活動を考える(発行)平成26年10月
- (左)「ちば民児協だより第 68 号」(特集) 児童委員 活動を考える(発行) 平成 27 年 6 月

参考

本誌とあわせて読みたい児童委員活動・関連冊子

本ページでは、児童委員活動に参考となる冊子や、事例検討に活用できる冊子をご紹介します。なお、ここに掲載する各冊子は、当会及び全民児連HPからデータをダウンロードすることができますので、ぜひご活用ください。

- ●県民児協HP(http://www.chiba-minkyo.or.jp) の中央「民生委員の部屋(緑色のタグ)」→右上のメニューバー「広報紙」
- ●全民児連HP (http://www2.shakyo.or.jp/zenminjiren/index.html) 中央右「民生委員・児童委員専用ページ」→パスワード「20131201」と入力。

単位民児協会長のための情報誌 View







- ●発行:全民児連/●発行日:年4回/●配付:単位民児協会長
- (右) Vol.200「(特集) 児童福祉法改正の意味するもの」
- (中央) Vol.198「(特集2) 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について」
- (左) Vol.196「(特集)『子どもを犯罪から守るまちづくり』のために」

民生委員・児童委員のひろば





●発行:全民児連/●発行日:毎月/●配付:全委員(右)2017年3月号「(特集)学校との連携を進めていくために」/(左)2016年6月号「(特集)少年非行への対応について」

その他 児童委員活動関連冊子











- (右) 「子どもの貧困対策と民生委員・児童委員活動」●発行:全民児連/●発行日:平成29年3月/●配付:全委員
- (中央右) 「児童委員活動の手引き(第41集)」●発行:全民児連/●発行日:毎年度/●配付:同上
- (中央) 「児童委員協議会活動の充実のために」●発行:全民児連/●発行日:平成 27 年 3 月/●配付:同上
- (中央左)「民生委員・児童委員による子ども・子育で家庭への個別支援事例集」●発行:全民児連/●発行日・配付:同上 (左) 「民生委員児童委員 必携第61集」●発行:全社協・毎年度/●発行日:平成29年1月/●配付:同上



下校時刻になると、教室前で4コースに分 かれて整列し、ボランティアさんと挨拶。



前後に付き添い、横断歩道や路地前等、 校時に注意すべきことを伝授。



茂原市立緑ヶ丘小学校・学校支援ボラ 「緑ヶ丘児童を守る会」 の皆さん (7月12日 出席者のみ)。(右から3番目)内海京隆会長、(中央)昨期まで児童委員だった神山良子さん、(左 から3番目) 主任児童委員の原田奈津美さん。

くお願いします」 「ボランティアのみなさん、 今日もよろし

のみ め学校から周知された下校時刻の 含む19名のボランティアが登録 登校日。 活動日は、 の自宅付近まで同行しています。 4つのコースに分かれて、 現在、 集団下校日 主任児童委員と元児童委員を (木曜) 児 童 約10 を除いた全 あらかじ 分前に

ح ع

遠い子だと15キロもあるので、

歩きながら観察してると、今日は元気ないな

は適していると判断しました」

と話します

現在のやり方が一番この地区に

人数を集めるのも

また、

元児童委員の神山良子さんは、

活動の良い所は、

子どもと話す時間

以が長い 一緒に

茂原市二宮地区 ∙緑ケ丘団地~

はじめの一歩

東金市 ~~ . 九.十九里町 千葉市 緑区 大網白里市 市原市 JR 外房線 白子町 茂原駅 長柄町 長生村 園央道 茂原 L 長南 IC 長南町 睦沢町 市原 鶴舞 IC いすみ市

緑ヶ丘団地

昭和 62 年に分譲が開始。約 1,700 世帯 を有す大型(戸建て)住宅団地。

緑ヶ丘小

·---平成3年に開校。全児童数は 157 人。見 守り対象は小学1年生21人。

茂原市二宮地区民児協。緑ヶ丘団地内委 員数は5人。

まりました。 行する「 ンティア制度を開始。 茂原市では、 この制度をもとに、平成17年12月から始 「緑ヶ丘児童を守る会」の見守り活動 平成16年4月に学校支援ボラ 児童の自宅付近まで同 置する必要があるんです。 は円形状のため、要所だけでも約20名ほど配 大変ですし、

の見守り活動が始まります。

丘小1年生の元気いっぱいの挨拶から下校時

下校時刻の14時半。

校門前に整列した緑ケ

うちにみっちりとレクチャーしています。 り方や一旦立ち止まって左右確認をしたほう 児童の前後に付き添いながら、横断歩道の渡 初は辻立ちも検討しました。ただ、この団 はないのか? がよい場所、 この会を立ち上げた内海京隆会長は、 なぜ、 つのコースに2・3名のボランティアが 他地区のように交差点での辻立ちで 帰宅時の心得などを、



公園前に掲示される「5つのやくそく」を ボランティアさんが読みあげ、児童が復唱。



ボランティアでも、男性は先頭を、女性 後ろから子どもの様子を伺うことが多い。

緑ヶ丘小学校・学校支援ボランティア ●主催 「緑ヶ丘児童を守る会」 ●構成 19 名 (児童委員7 (前・元含む)・老 人クラブ9・その他3名)

●活動日 平日(休校日・集団下校日を除く)。原則 14:30~ 15:30。 時間帯 下校予定時刻は、毎月学校から連絡あり。

●活動方法 原則徒歩 or 自転車。各コース最後の児童の自宅付近まで同 行。参加日・コース等のシフト編成は行わず、自由参加。 参加方法

●登録方法 ①各会員は、緑ヶ丘小学校「学校支援ボランティア」に申込み・ 登録、その他②茂原市の自主防犯団体と、千葉県交通安全推

進隊に登録。

下均フ・

8名のボランティアが参加

じて

ッ ま

参加日を決めて交代制にすると、

この活動

への参加

方法は、

原則自由。

毎

日

と話します。

●備品 上記②に登録し、帽子・ベスト・腕章・誘導旗等の支給・貸 与制度を活用。

健

康にもいいです

子ども達と接するの

何よ

4つのコースを回っていると自然と

なる子には声をかけるようにしています」 いったことがわかるようになるんです。

の 子

だけ

離

れて歩いてる

大勢としての児童では

なく、

児童個々

は様子を見ることができる点を挙げます。

|任児童委員の

原田奈津美さんは、

了子ど

保険等 市がボランティア保険に加入。補助金・報酬はなし。

その他 は楽しいですからね」 地域のこともよく知ることができます。 ます もを迎えに出た親御さんとも話す機会ができ 採用しているようです。

という理由から、発足当初よりこの方法を

や負担がかかり長く続けることが難

「できる人が無理のない

範

囲

で行

負担を感じることの

ないように

すること

域に必要なものも見えてくると思い 加することから始めてみると、 からこそ見えてくることも多いはずです。 まず学校との を考えていく必要はありますが、 児童との関わりを持つには がけて、 は始めやすい活動の一つです とは内海会長。)ます。 「自分たちの 地 意見交換や、 域の 実情に詳しい児童 地 域に ボランティアに 「登下校の見守 その学校や あ それより たやり ます」 委員だ لح 地 参 ŧ 方

■(取材日)平成 29 年 7 月 12 日(水)/(参考)茂原市・千葉県庁・緑ヶ丘小学校 HP 他

継続していくには必要なことだと思い

登下校の見守り・はじめの一歩

学校側の希望も含め、行う(始める)目的はしっかりと。児童の安全や、児童・親との交流、 -目的 学校との連携など、みなさんの地域にあった目的を検討してみましょう。

児童の見守り活動への取っ掛かりは、本稿の緑ヶ丘団地のように、学校支援ボランティア(図 書・草刈・花植え・防犯パトロール・登下校)への登録から関わりを持つか、既存の町会・ 関わり方 自治会等の防犯・見守り活動への参加をきっかけとするところが多いです。自身の地域で行っ ている活動を確認してみましょう。

●対象 見守る対象の設定も必要です。小学校の全児童? 低学年のみ?

見守る方法もよく検討を。時間帯は、登校時(or・and)下校時か、またその方法は辻立ち ●方法 or 同行随伴か。目的やボランティアの人数も念頭に検討してみましょう。

緑ヶ丘小では、広く一般に募集しても効果が薄かったとのこと。個別に、犬の散歩やウォー ●人材 キング、子ども好きの方に働きかけをした方が効果大。

経費は、市町村行政や県の補助制度の活用がおすすめ。制度を活用し備品等を揃えれば、活 ●経費 動経費はそれほどかからない。



中台地区社協のみなさん(児童委員の現・元含む)。左から小林さん、福 田さん、齋藤さん、中村さん、山川さん、上村さん、梅田さん。

(取材日) 平成 29 年 7 月 14 日 (金)

(左写真) 体験活動の写真6枚は、中台地区社協から提供

両校の4年生児童を対象に、

高齢者疑

各校・千葉県庁・以下社協 HP(千葉県・長野県・静岡県・鳥取県)

着時の補助などのサポート役を務めます。 社協の職員を迎え、 0) 体験を実施しています。 体験を行いました。 歩行や視覚障がいなどを想定した 本年度は、 中台小・体育館を使用 児童委員は器具の説明 インストラクター (左記)

は

装 市 疑

実践のための 体験

協働. をきっかけに、 下段参照)」 その中で、 地区内には小学校が2校 始した「高齢者疑似体験」 成田市中台地区では、 した様々な取り組みを進めてきま 福 [祉教育推進校 の指定を受け、 本 平成26年度から小学校と協働 稿で取り上げるの 平 成 25 推 地区内の学校と連 進 です。 (中台小・ 団 体 年 は、 度 (概要は なからの この した。 向台小 3年 指定 左

高齢者疑似体験(概要)

高齢

者

●主催 小学校(地区社協は協力) ●開催日 年1回(H29年度は6月開催) ●開催時間 9時25分~11時20分 ●開催場所 中台小学校·体育館 小学 4 年生 27 名 ●対象者 市社協+地区社協 10 名程度 メンバー 器具は市社協から無料レンタル。体験 ●備品等 日の前日に体育館へ搬入。 ●その他 昔の遊び(1・2年生)、花植え(4 年生)、あいさつ運動など、毎月小学 生と交流。

4 はじめの一歩

高齢者 疑似体験

体験 1

成田市ニュータウン地区 ~中台地区社協~

ニュータウン地区と中台地区の概要

ニュータウン地区(民児協)

●人口 36,397 人/●65 歳以上高齢者数 7,323 人/●高齢化率 20.1%/●区域内学 校数:小学校8校・中学校4校・高校1校 /●児童委員数30人

中台地区

●人口 7,354 人/●65 歳以上高齢者数 1,593 人/●高齢化率:21.7%/●担当区域: 中台1~6丁目/●児童委員数8人(男4・ 女4人) /●区域内学校:中台小学校(全 児童 173 人)・向台小学校 (285 人)・中台 中学校(261人) ※平成29年4月現在







齢者のように(強制的に)腰を曲げる仕組み。

行

丸

い箸で大豆

をつま 段

む

広告チラシ

 σ

開閉

階

异降

隥

が

物

の

歩

文字や色の確認

高所の

モノをつかむ

主なメニュ



白内障ゴーグルと軍手を付けて豆をつかも うとするものの悪戦苦闘する児童。



体験後の振り返りの時間。体験したからこ そ感じることや見えてくることも。



白内障ゴーグルでチラシを見る児<mark>童。</mark> をつけてページをめくるのも大変。



歩行体験時には杖も使用。写真奥は、 曲げた状態で高所にあるモノを取る体験。

おじいちゃんおばあちゃ

んの気持ちが

文字も見えづら

を見る・取るといった日常動作を体験した児 を装着し、

٤

自

分自身との

「違い」

や配

慮

わ かった。 からは 、き点などを実感したようです かった」 「段差も歩きづらいし、

どういう環境を整える必要があるのか」 実際に高齢者と接し、「自分に何ができるの この他、 実践する大切な時間となっています でも、 高齢者との交流の場を持っています 毎年10月に開催する敬老会 (下記 を か。

た福祉体験について話し合ってみませんか? さんの地区でも、 花が咲き、 学校で種をまき、 取ることができるきっかけにもなります。 有することができた」 福祉体験は、 この指定事業終了時の報告書の結びには、 地域で実を結ぶという認識を地区で 地域に暮らす高齢者の実情を感 楽しんでできる、 中学校で水をやり、 と書かれていました。 年齢に応じ 高校生で 皆

顔 3 には白内障を体験できるゴー 両 1 肘 組となっ 両 .膝 て 両足首には計5 交代しながら6 kg ル

つの疑似体験を行っ

ていきます

体験後は、

歩くことやバランスをとること、

物

全員で振り返りの時間です。

錘

を装着。

手には軍

手

童は、

●福祉体験学習・はじめの一歩

この取り組みは、学校と民児協だけで始めるにはなかなか難しいかもしれません。教育のプロである学校、 福祉のプロである社協、地域の実践者である児童委員などが集まる場をつくり、学校や生徒の様子、地域 の状況などについて意見交換をしながら共通認識を持っていくことからはじめましょう。

こうした福祉体験(教育)の実践方法については、(右の)ハンドブックをご覧ください。また、県社協 や市町村社協では、疑似体験器具や福祉教育関連ビデオの(無料)貸出など行っているところもあります。

●福祉教育推進校・推進団体とは?

事業実施主体は、県社協及び県福祉教育推進連絡会議。この事業では、子どもの発達段階に応じた福祉 教育の実践をより効果的にするため、中学校区域内の小中学校と公立高校、地区社協等の福祉団体をセッ トで指定する「パッケージ方式」が取り入れられています。団体への助成は、3ヶ年で各年10万円。

中台地区では、中台小・向台小・中台中・成田国際高の4校と、中台地区社協が指定を受けていました。 毎年 10 月に開催している敬老会では、4 校の児童・生徒も受付や案内、司会進行といった運営者として参加。 琴の合奏(成田国際高)や吹奏楽の演奏(中台中)、リコーダーの演奏(両校小学生)などの演目も。



「福祉教育ハンドブック ACCESS & SUCCESS J 改訂2版/●発行:県 社協∕●発行日:平成 29 年 8 月/●内容: 福祉教育の考え方や進 め方、事例などを掲載。

- ●器具やビデオ貸出:県社協ボランティア・市民活動センター(お問い合わせ先)043-204-6010
- ●(右写真の)ハンドブック: 県社協ホームページ(http://www.chibakenshakyo.com)(トップページ>「県民の皆さまへ」>「ボランティア」)



サロンが始まる前に、児童委員の中嶋さんから注意事項やスケジュールを伝達。



畳部屋はサロンには最適。ボランティアである児童自身が楽しんでいる姿が印象的。

でサ

ロンを開催しているので、

ら年4回

ンティアを両校から募集するようになりました.

(春休み1回・夏休み3回)、

児童

ボラ

話し合ってきたんです。 ような活動が何かできない

その

が結果、

平成24年度か

かと、

以前から学校と

迎えて、

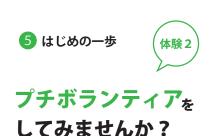
計3回開催しています。 会の鶴崎光次会長は、

同協議



手前左から富里地域ふるさと協議会会長の鶴崎さんと柏第三小学校児童の皆さん。上段左 から市職員2名と、9名の児童委員・主任児童委員さん(右から3番目は山名会長)

かけに、 が開設されるため、 ラブ ボランティア お引越し。少し趣向も変え、 園児とその親を対象とした ル 区 間の活用方法について相談を受けたことをき 夏休み期間中の8月は、 富里 内にある柏第三小学校と豊小学校の $_{L}$ を開催。 (同※2)」を活用 平成 19 域ふるさと協議会 (対象は原則6年生) 年 市子ども福祉課から、 11月から開 サロンは富里近隣センター 「どんぐりすくすくク 日中 (下記※1) 両校から募った児童 始されました。 毎月各1 「こどもルー をスタッフに 部屋の って ど 回 は 空き 未就 \angle 地



柏市富里地区民児協

(取材日) 平成 29 年 8 月 17 日 (木) 考) 柏市役所·柏市社協·各校 HP 他

どんぐりすくすくクラブ(概要)

児童が参加できる

せっ

かく

、小学校

●主催	富里地域ふるさと協議会			
●開催日	月2回(第1水曜日・第3木曜日)			
●開催時間	10:00 ~ 11:30			
●開催場所	柏第3小学校・豊小学校「こどもルーム」			
●対象者	0歳から未就園児と、その親			
●スタッフ	52 名(児童委員・健康づくり推進員)			
●参加費	 無料			

「ふるさと協議会」とは? **※ 1**

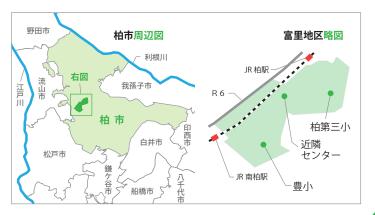
昭和 55 年、行政と地域をつなぐ組織として市内 20 ヶ 所に設置され、民児協・社協・町会等の地域組織が参画。

柏市「こどもルーム(学童)」とは?

市では、児童の居場所づくりを目的に「こどもルーム」 (41ヶ所は小学校内)に設置。主に共働き等の 理由で昼間帰宅しても保育する人がいない児童が対象。

富里地区(民児協)の概要と略図

●人口 19,869人/●65 歳以上高齢者 3,968 人/●高齢者率 20.0%/●児童委員数 27 人 (男 8·女 19 人)/●区域内小学校: 柏第三小(全児童数 934 人)・豊小(642 人)※平成 29 年 4 月現在





児童委員は、一歩下がって、お母さんと子 ども達の様子を笑顔で見守っている。



自分の子どもと児童が遊ぶ様子を、どのお母さんもニコニコした笑顔で見守っている。



毎年男子児童の参加も。男子児童は、幼児 を笑わせよう・楽しませようという遊び方。



3人1組で、巨大絵本(「金魚がにげた」) で読み聞かせも体験。

切なのかなと思っています。

ろな

『気づく』

きっかけを提供していくことが大

それには

体験して



照れくさそうに「お姉ちゃんあげる」。



同じボランティアでも、女子児童は幼児と同じ目線で寄り添うように遊んでいる。

今では、

募集枠

(1回5・6名)

を超える応募が

り、

夏休みの

人気の課外授業となっています

取

材日に参加

した児童は、

8 名

(6年生5名

で児童委員の中嶋明子さん。 になっていると思います」とは、

開始から5年経った

サロンの責任者

しノ

ので、

児童には小さな子どもと関わるよい

ことはあ

りますが、 |学校では、

子育てに関することはやらな 高齢者の疑似体験等を行う

また、

ゃ を務めています。 て楽しかった!」との声を聞くことができまし 省会では、 童の自主性に任せています。 守りながら、 分もすれば、 山名恵子・ 下記スケージュールを危なげなく終えた後の 開始当初は、恐る恐る幼児と接していた児童 危ない時の声かけに徹. どの児童からも「小さな子とふれあえ 子ども同士の会話のきっ 地区民児協会長は、 夢中になって子ども達の遊び相手 その傍で、 しており、 児童委員は笑顔で見 「大人はいろ かけ、 遊び方も児 づくり

型の活動 もらうことが えなど、 催 同協議会では、 (年2回) 世代をつなぐ、学校と地域をつなぐ体験 (ペンキ塗りなどの) 学校ボランティア活 を展開しています。 や、子ども会との飯盒炊飯体験 番です」 学校との定期的な地区懇談会の と話します。



毎年 11 月に開催する「飯盒炊飯・カレー作り&防災訓練」。平成 28 年度は、約 300 名を超える地域住民の参加があった。



毎年6月、柏第三小で開催する「ニュー ポーツの集い」。平成29年度は、高齢者90名・児童60名が参加し7つの種目を競った。 高齢者 90

ボランティア児童のスケジュール

 $9:30 \sim 9:35$ 会場に集合。児童委員の中嶋さんからスケジュール や注意事項を聞く。受付係(2名)と幼児遊び係(6 名)とに役割分担。 $9:35 \sim 9:50$ 掃き掃除と遊具の準備 $10:00 \sim 11:15$ 参加者と自由遊び 絵本の読み聞かせ(児童3名×2組) $11:15 \sim 11:20$

 $11:20 \sim 11:25$ 手遊び歌 (全員)

少しずつ参加者が来館してきます

掃除や遊具の準備を終えた9時50分頃から

アンパンマンのワッペン付きエプロンを

集合し、

年生2名・3年生1名)。

児童は、

9

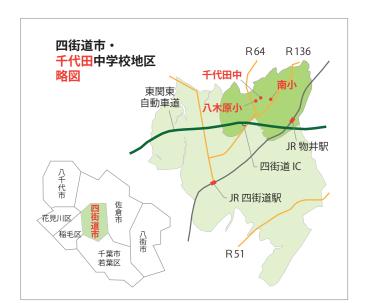
時半

頃に

 $11:25 \sim 11:30$ スタッフ&参加者で記念写真

 $11:30 \sim 11:45$ 片付け

反省会&アイス&参加賞にボールペンをプレゼント $11:45 \sim 11:55$



6 はじめの一歩

四街道市千代田中学校地区

千代田中学校地区(民児協)の概要

入口 14,682 人/●65 歳以上高齢者数 5,082 人/●高齢化 率 34.6%/●主な担当区域: 亀崎、物井、長岡、内黒田、千代田、 物井茶屋の作、池花、もねの里/●児童委員数 21 人(男9・ 女 12 人) / ●区域内学校: 八木原小学校 (423 人)・南小学校 (417 人)・千代田中学校 (393 人)※平成 29 年 4 月現在













ぶ課題を考え、それを解決できた時の喜び

校ボランティアの会が「子ども達自ら、

学

る場を作れないもの

かと相談を受け

当時の校長先生から、

長期休みの間

寺子屋を開設しました。また、子ども達か を知ってほしい」と、地域の学び舎である

「友達と会える場所がほしい」

目ら学ぶ場

ています。 時間30分」のプログラムで自学の場を提供 子屋会場に、「自己学習1時間+体験学習1 声にも後押しされてのことでした。 ンティア20~30名がスタッフとして協力し 重委員、PTA、 しています。この運営には、 以来、 毎年夏・冬休み期間、 高校生・大学生などのボラ 地域住民や児 小学校を寺

28~30日の5日間に渡って開校されました。 7 24 28 平成29年 度 • 31 日 \mathcal{O} 夏期自学塾 \mathcal{O} 6 \Box 間 は 8 月 24 • 全 11 \Box 25 間

守られながら、ドリルやワークブックなど 勉強をする時間。 年別に定められた教室へと向かいます。 まず、 する体験学習を確認した児童たちは、 してきます。受付を済ませ、 朝8時半頃から、児童たちが三々五々登 9時からの 2名のボランティアに見 1時間は自分で決めた その日に 学 参

代田中学校地区内)

の

「寺子屋自学塾」

平成22年に開始された、

八木原小学校

プログラム

 $\sim 9:00$ 受付(下駄箱横の名簿に〇)

9:00~10:00 自己学習(学年別)

10:00~11:30 体験学習(下記種目別)

11:30 終了

体験学習の種目(10:00~11:30)

①囲碁(4日)/②将棋(全日)/③和太鼓(全日) ´④読み聞かせ(2日)/⑤バルーン(1日)/⑥折 り紙(1日)/⑦木版(4日)/⑧ダーツ(6日) ⑨工作教室(2日)/⑩空手(2日)/⑪竹で遊ぼう(3 日) / ⑫認知症(1日) / ⑬図書室(全日) / ⑭お茶(1日) /⑤竹馬(3日)/⑥アンパンマン(2日)/⑰声優(1 日)/18吹き矢(9日)/19ハロー(2日)/20実験(1日) ※色付きは下に写真あり

寺子屋自学塾(概要)

: 八木原小学校・学校ボランティアの会 ●主催 夏期 11 日間 (7月は6日、8月は5日)、 ●開催回数

冬期 5 日間

●場所・時間 : 八木原小学校 9時~11時30分

●対象者 八木原小学校児童

(延べ) 323 名 (児童委員 40 名・PTA104 名・ ●スタッフ

学生5名・その他174名)

●児童参加者数: (延べ) 1,490 名(1日平均) 135 名

●参加費 参加希望の児童1人1,000円(保険代込み)。

夏期参加者は冬期無料。

●年間収支 主な収入は、参加児童世帯からの参加費約

20.3万円。支出は、約12.8万円(児童の保険、

体験学習の備品、事務用品・通信費等)。











な学習の場を求める声もあったようです。

スタッフとして参加していたPTAの方

勉強することができた」、「いろいろな本を 学年の子と遊べて楽しかった」、「集中して

むことができた」といったものや、

静

楽しかった」という感想はもちろん、

児童からのアンケートでは、

「体験学習が

「違う

200名)

以上が参加しています。

開校して7年。

毎年、

全校児童の半

数

きちんとやるんですよ。

友達とも会えるし

「家では勉強しないのに、

毎年ここでは

保護者や学校からの評判も上々。

楽しみに通ってますね」と、自学の場として、



将棋などをはじめ全20種(左上参照)

を日

今夏の体験学習は、

人気のダーツや太鼓:

地域住民が先生役を務めました。

わりで用意。

1

日4~8種目を開

なっています。 達の成長を見守る場として、 んは、 所でもあり、 たが、 る活動だと思っています」 同ボランティアの会会長の長谷川 この寺子屋 「昔は、 この活動を始めてから、 今はそれも難 いろいろなことを学ぶ場がありま 自然や上級生との交流などを 私たちにも、 地域と接する貴重な場にも は、 子ども達にとって、 しいところがありま と話します。 とても意味 地域で子ども 「街で逢 三陸美さ 居

夏休み 教室へと一斉に向かいます。 児童はそれぞれが希望する体験学習の Ö) 宿題 に 取り 組み 、ます。 10 時に なる



平成 14 年に学校ボランテ 左から、 上げた田中重光さん(元児童委員)、千代田中学校 地区民児協の梅山美枝会長、学校ボランティアの 会及び地区社協会長の長谷川睦美さん(児童委員)。



千代田中学校地区民児協の児童委員と地域ボラン ィアの皆さんは、体験学習でお茶会を担当。 山会長(右上)は自宅で表千家の茶道教室を開催 していることもあり、お弟子さんも参加。

学校ボランティアの会 (概要)

- ●会長:長谷川 睦美(児童委員・地区社協会長)
- ●発足:平成 14年(自学塾は H22~)
- ●ボランティア数:約 120 名
- ●その他活動:交通指導(通年)、花壇整備(年 4回)、草刈り(年3回)、(1年生) こいのぼ り見学、焼き芋、昔の遊び、幼保小交流会、(2 年生) 野菜苗付け、町探検、(3年生) 給食会、(5 年生)米作り(代掻き~稲刈り、収穫祭等)、(6 年生)室町文化体験(茶道・華道)、戦争体験 学習、グラウンドゴルフ交流会

平 地 援やホタル鑑賞などの 生ボランティアがスタッフとなり、 冬休みの数日間、 千代田中学校地区民児協の梅山美枝会長。 との距離がぐっと縮まりましたね」 たら挨拶もしてくれます 象に希望を募り、 X いるところもあるようです。 ケ 成 同 千代田中学校地区の取り組みをもう一 几 内で、 街道市では、 地 所 24 年 区民児協 で寺子屋が開設 1 5 歳 月に 未満の乳幼児がいる家庭 では、 「子育て安心袋」 この 地域の 災害時に活用できる備 野 自学塾を含め、 されています。 地 外活動などを行っ 公民館などで、 区社協と協 保護者や児童 を作 学習支 とは、 力 市内 つ。 夏 製。 学 を

子屋にも来ているようです。

も達を見守る取り組みを進めています。 地域のみんなで育てる」を合言葉に、 世帯との関わりをつくり、 子育て日本一 代田 中学校地区では、 のまち」を目指 地域の子どもは 地域から子育て す四街道 市

(下記参照)

を配付しました。

配

付した

55 な結果が出ています 世 帯に は 簡易調 査も実施し下記

報を一 だと思います」と、 だった子どもも、 (地区社協会長は話します。 ĺΞ 高齢者だけではなく、 ŧ 地域が見守っているよというメッ 部でも把握できたことは なったと思いますし、 今では小学生になっ 梅山民児協会長と長 子育て世帯 当 未就学児の 時 大きな成 乳幼 0 0) いよう セ 方 兇 果

ŧį

(取材日)平成29年7月6日(木)・31日(月)・8月24日(木) 考)四街道市・八木原小・チームよつてら HP 他



■高齢者用安心袋

子育て世帯向けより1年早 く、平成 22 年度中に配付・ 調査を実施。ひとり暮らし高 齢者と、夫婦で合計 150 歳以 上の世帯を対象に配付。

●子育て安心袋

平成 23 年 12 月に、 自治会の回覧板や児童委 員を通して対象世帯に周 知し、応募先は児童委員 又は市社協。配付物は下 記の通り(右写真は一部)

●緊急連絡用紙/●身近 な相談先一覧/●子育で

健康体操/●ロープ(抱っこ紐)/●ホイッスル /●アルミ毛布/●ウェットティッシュ (資料類)

●近隣マップ(施設・公園等)/●(子育て世帯用) 防災グッズ一覧/●子育てに関する生活の智恵/

●子どもの観察のポイント/●ファミリーサポー トセンター/●地区社協PRチラシ

●子育て世帯への調査結果(全55世帯)

調査内容は、次の4点。①子どもの人数、②育児 協力者、③相談相手、④心配ごとの内容。

育児協力者	育児協力者 相談相手		心配ごと	
祖父母 44	ママ友	42	情報不足	昆21
親類 9	保育士	10	保育所	12
近所 8	両親等親類 6		遊び場	11
	医師	1	通院	8
	夫	1	(複数回答あり	